

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立南川副小学校

5月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

令和3年5月27日(木)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数)

- |                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。<br>②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。<br>調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

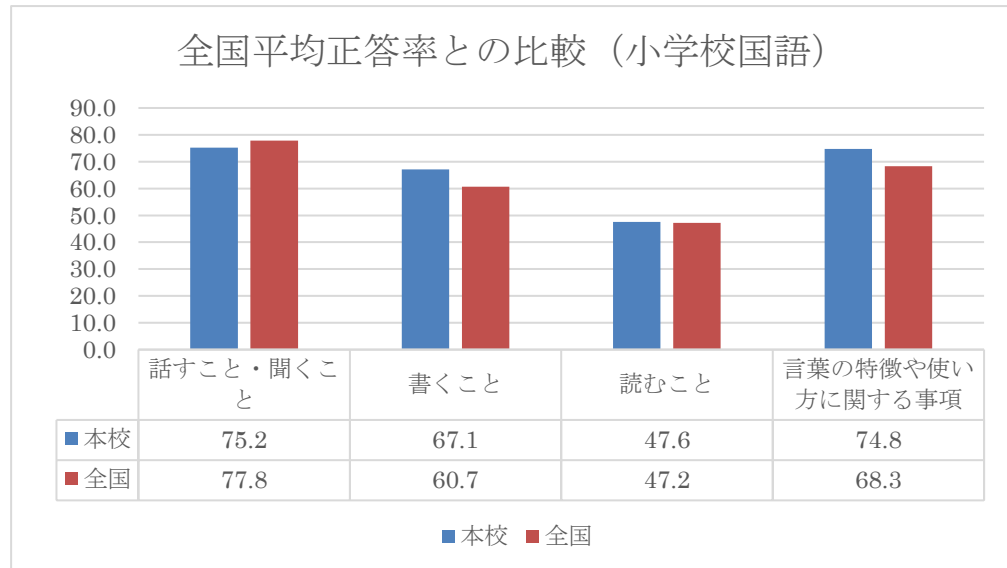
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

## ■ 調査結果及び考察

### 1 国語



#### (1) 結果

ほぼ全国平均と同等かそれよりも高い結果でした。「話すこと・聞くこと」で全国平均正答率を下回っていますが、「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国平均正答率を5ポイント以上上回っています。また、無解答率をみると、問題形式の選択式では全員が回答することができていましたが、短答式・記述式の問題では、いくつかの項目で無解答率が全国平均よりも高くなっています。

#### (2) 成果と課題

今回の調査で、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が 6.5 ポイント上回りました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」です。正答率 41.0%は、全国平均正答率 40.2%を上回っているものの、苦手になっている児童が多くいます。児童の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

#### (3) 学力向上のための取り組み

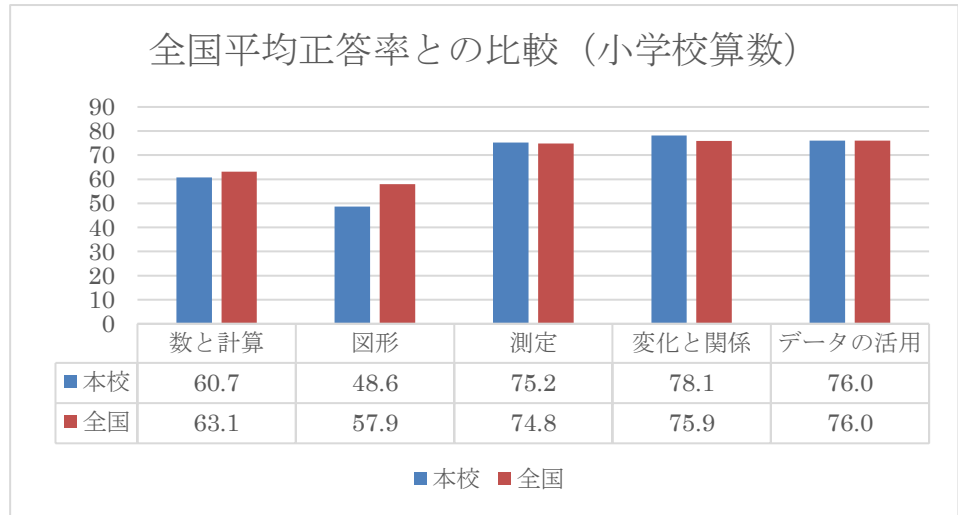
##### 【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫し、目的意識・相手意識をもたせた言語活動を設定しています。
- スピーチタイムで言葉に着目させ、対話力の育成を図っています。
- 始業前（8:00～8:15）に読書タイムを設定し、読書の機会を増やしています。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。

##### 【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、様々な表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子どもの読書習慣をつける上でおすすめです。

## 2 算数(数学)



### (1) 結果

「図形」の領域が全国平均よりも下回っていますが、それ以外はほぼ全国平均と同等の結果でした。「数と計算」の領域が全国平均を下回り、「測定」と「変化と関係」の領域で全国平均を上回っています。

また、無解答率を見ると、問題形式の短答式・記述式でやや高い項目がありますが、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

### (2) 成果と課題

今回の調査では、「C 測定」の領域の条件に合う時刻を求める問題の正答率が全国平均正答率を2.7ポイント上回っていました。また、「D データの活用」の領域の、棒グラフから数量や項目間の関係を読み取る問題の正答率も全国平均正答率を上回っていました。「B 図形」の領域2(1)のような三角形の面積を式に表す問題では、公式を理解していても、底辺と高さの関係から必要な情報を図形から選び出すことができず、2つの道のりの差の求め方と答えを記述する問題では、全国正答率よりも5.4ポイント下回るなど、問題形式の「記述式」の問題で課題が見られました。

日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

### (3) 学力向上のための取り組み

#### 【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面をつなぐようにしています。
- 朝のスキルタイムやチャレンジスクール(参加者)では、計算問題等に集中して取り組ませ基礎・基本の力の定着を図っています。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れています。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

#### 【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

#### 4 生活習慣や学習習慣に関する調査

##### (1) 結果 《生活習慣・挑戦心・達成感・自己有用感について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	94.6%	94.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	75.6%	81.2%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	89.2%	90.4%
自分にはよいところがあると思いますか。	64.9%	76.9%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	70.3%	70.9%
将来の夢や目標を持っていますか。	62.1%	80.3%
学校に行くことは楽しいと思いますか。	78.4%	83.4%

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校が協力して、習慣化していきましょう。

挑戦心や達成感・自己有用感の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。めざす子ども像である「あきらめず挑戦する子ども」を意識させ、挑戦し達成感が味わえる活動を仕組んでいきます。

##### 《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	78.4%	74.0%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.4%	11.6%
「2時間以上、3時間より少ない」	21.6%	15.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	45.9%	35.6%
「30分以上、1時間より少ない」	18.9%	24.5%
「30分より少ない」	8.1%	9.5%
「全くしない」	0%	3.5%
新型コロナウイルス感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか。	62.1%	55.2%

家庭学習については全国平均とほぼ同等であるが、まだ1時間未満の児童が3割近くいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、新型コロナウイルス感染症拡大による児童の心の問題も、大切な課題であるととらえています。

##### (2) 改善に向けての取り組み

###### 【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年や中学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。これからも内容を充実させ、学力向上に努めていきます。
- 「家庭学習がんばり週間」を実施し、学習時間やテレビ・ゲームの時間を調べ、学習環境の改善に努めています。また、「生活振り返り週間」では、「朝8:00までに登校」「早寝早起き朝ごはん」など生活を振り返り、生活リズムを整えることで、子どもの意欲の向上を目指しています。

###### 【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「生活振り返り週間」でも取り上げている項目です。「生活振り返り週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着することは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。
- 「南川副小家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。